

(令和7年度)
自己評価書

園番号	園名
639	奈良市立伏見南幼稚園

639奈良市立伏見南幼稚園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
I 教育・保育活動に関するもの	(1) 教育・保育目標/計画	① 教育・保育目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> 子どもや園の実態を踏まえ、教育要領や奈良市子ども園カリキュラムバンビーノプランに沿いながら教育課程を編成する。 職員が教育ビジョンを共通理解し、子どもの実態に即した指導計画の立案及び推進を行う。 5つの目指す子ども像を職員全体で共通認識をし、それらを育てる教育を計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育目標について、全職員で共通理解をする。 教育ビジョンの周知とともに目指す子ども像を常に意識し、保育・教育活動に取り組んだ。 教育要領の理念を確認した。 保護者アンケートを実施し、職員で話し合い改善に努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 教育目標、教育ビジョンに迫るための経営方針を会議で共通理解できた。 保護者アンケートでは、ほぼ肯定的な意見をいただいた。「喜んで幼稚園生活を送っている」また、「園運営に関すること」や「特色ある園づくり等に関すること」などの項目で、高評価を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度に向けて、今年度の反省評価を行い、課題を明らかにする。また、変容する社会状況に対応できるように努める。 園の教育目標や方針、保育内容等を保護者に伝える機会を大切に理解を進めていく。
		② 教育・保育計画の作成			B		
		③ 教育課程/全体的な計画の編成			B		
		④ 教育・保育活動の評価			A		
	(2) 教育・保育内容/指導	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 教育要領や奈良市バンビーノプラン、子どもの実態、社会状況に即した指導計画を立案している。 ねらいを明確にし、環境・教材を工夫する。 職員間で保育の振り返りをし、子どもの姿や活動や情報を共有して子ども理解を深め、評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」やバンビーノプランをベースに、各学年の指導計画について検討、作成した。子どもの思いや願いが生きる環境の工夫と教材を研究し実践した。 一人一人の子どもの実態、発達の過程を職員間で共通理解し、指導に活かし取り組んできた。 主体的に遊ぶ子どもの姿を出し合い、子ども理解が深められるような話し合いの時間を継続していった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 奈良市バンビーノプランから指導計画を立て、毎月の省察から子どもの姿・発達に合った保育内容であるかを検討していった。 園の教育目標や方針、保育内容等を保護者に伝える機会を大切に理解を進めていく。 機会を捉え子どもの姿を通してカンファレンスを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの実態に応じて計画を見直し、より効果的な体制づくりに取り組む。 個別の指導方法を研究し、充実させていく。家庭・小学校・関係機関との連携を一層密にする。
		② 保育内容の精選			A		
		③ 指導方法の工夫改善			B		
		④ 評価			B		
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ねらいに添った環境や援助を工夫したり、場や状況に応じた態度が身につくように支援を進める。 日本の伝統行事や四季に触れ、情感を育む内容や環境の工夫をする。 保護者や地域の方に協力をいただき、豊かな経験や体験ができるように連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 園、地域の状況を随時把握し内容や実施方法等を検討し、子どもの学びに繋がるように取り組んだ。 4歳児と5歳児が共に親しみもてるような活動内容を取り入れ、行事に組み込んだ。 保護者の理解を得ながら、子ども達が豊かな経験を積み重ねられるよう計画に基づき行事を行った。 気候に合わせて臨機応変に計画を見直したことで、安全に活動ができるようにした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員、保護者、地域の方と話し合い、活動内容が充実した。 活動を通して4歳児と5歳児の交流を深めることができた。 保護者や地域の方々の協力を得て、園行事を実施することができた。 行事を通し、経験を積み重ね、人・ものこととの関わりを広げた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の行事を検証し、来年度の計画を立てる。 来年度も地域、保護者との連携を図りながら、子ども達が豊かな経験ができ、主体的に活動できる内容を計画し、実施する。
		② 行事内容の精選			A		
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 子どもや地域の実態に即した人権教育指導計画を作成している。 自分の良さを知るとともに異年齢・小・中学校・地域の方と関わり、互いに様々な思いや考えを認め合える集団づくりに努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画と一人一人の実態とを重ね合わせながら取り組んだ。 一人一人の課題や疑問点に丁寧に向き合い、必要に応じて学級全体で取り組んだ。 毎日の生活の中での友達や身近な人との関わりを教材として、人との関わり方や認め合う大切さを指導した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の人権尊重を基盤に、子どもの様子を丁寧に話し合ったり背景を探り、寄り添えるようにした。 一人一人の思いや考えを大切に、互いに認め合える集団づくりに努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の実態把握に努め、指導方法を研修し実践していく。 保育現場での子どもとの関わりや言動等を検証し、職員間で学び、自身のスキルアップと学級全体へのフィードバックにつなぐ。
		② 保育内容の精選			A		
		③ 指導方法の工夫改善			A		
	(5) 生徒指導	① 組織的な指導	<ul style="list-style-type: none"> 全職員の共通理解のもと、指導を行っている。 子どもに関わる情報を集約、共有し、子ども理解を深めている。 子どもの健全な成長の為、実情に応じ、家庭・関係機関との連携を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じて、基本的な生活習慣、安全教育、食育などの計画を立案し実行した。 指導が必要な子どもに対して、教職員で共通理解をし、保護者との対話を重ね継続的な指導を行った。 登降園時や学級懇談会などを通して、保護者に理解と協力を求めたり、啓発したりした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画を共通理解し一人一人に応じた指導に取り組んだ。 子どもが園生活を安心して送れるよう家庭との連携を図り、育ちの共有を続けている。 関係機関と連携し迅速に対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの実態に応じて計画を見直し、より効果的な体制づくりに取り組む。 個別の指導方法を研究し、充実させていく。家庭・小学校・関係機関との連携を一層密にする。
		② 教育相談・こども理解			A		
		③ 家庭との連携			A		
		④ 関係諸機関との連携			B		
		⑤ いじめ・児童虐待問題について	・対処方針や指導計画が明確である	<ul style="list-style-type: none"> いじめにつながる行為や言動を早期発見し、クラスで話し、社会生活を営む上で必要な規範意識が身に付くように指導した。 園内が安心、安定した場であることを実感して生活している。 実態把握を共通理解し課題を明確にして取り組んだ。 保護者と信頼関係を構築し、適切な支援に努めた。 報告・連絡・相談に努めている。 	B		
			・日頃より実態把握・早期発見に努めている		A		
			・各学級の状況を園組織として共有できている		A		
			・保護者や地域と連携できている		B		
			・組織的に迅速に対応する体制が整備されている		A		
(6) 特別支援教育	① 推進体制	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な子どもの実態や支援方法について子どもに応じた支援を共有し、全職員が共通理解し支援を行う。 一人一人に合った指導計画を立て、職員で連携をとり、確かな成長につなげている。 家庭・関係機関との連携を密にし、必要に応じて懇談を行ったり、関係機関からの指導を仰ぐ。 特別支援教育の研修会に参加し、職員間共有しながら支援の方法を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援を必要とする子どもの課題を職員で共通理解し、園全体で取り組む。支援内容の変更等、常に一人一人に応じた関わりができるようにした。 一人一人の課題を明らかにして支援を行うとともに、外部研修での学びを共有するなど職員のスキルアップに繋がるよう取り組んだ。 家庭と連携し一人一人の子どもの成長を確かめた。 市の発達相談を活用したり、特別支援コーディネーター、関係諸機関と連携したりし、特別支援教育を行ってきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 支援を必要とする子どもの日々の様子や指導計画を共通理解して、効果的な特別支援教育の実施に努めた。 進級、就学に向けて、関係機関と連携しながら対策を図った。 家庭、関係機関との連携、研修の充実等に努め、特別支援教育を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援を必要とする子どもの教育環境を整え、一人一人の課題への取り組みを継続する。 園内外の研修等に参加し、職員の資質向上に取り組む。 	
	② 個々に応じた特別支援教育の内容			A			
	③ 指導方法の工夫改善			B			
	④ 家庭との連携			A			
	⑤ 関係機関との連携			A			

(令和7年度)
自己評価書

園番号	園名
639	奈良市立伏見南幼稚園

639奈良市立伏見南幼稚園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育目標達成に向けての方針や園経営の考えを明確にする。 職員が話しやすく協力しやすい雰囲気での共通理解を基盤に役割分担、協力体制を構築している。 情報交換と課題検討の場として機能し、園運営に活かしている。 一人一人が特性を活かしながら、共に力を出し合い向上しようとする関係づくりに努めている。 変化に対応できる柔軟な運営に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育ビジョンを示し、職員間で共通理解を図った。 職員が保育目標や方針を意識し、チームワークを大切にしながら子どもの姿や発達に合った保育に日々取り組んだ。 一人一人の良さを活かし取り組むとともに共通理解を図り、課題解決に努めた。 職員間での気付きや、アンケート結果等から必要な改善点を明確にして解決に努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が協力・協働して話し合い、意欲的に取り組める環境にある。 職員のチームワークや職員間のコミュニケーションが適切であった。 担当の公務文書をより責任をもって迅速に処理するよう全力で努力した。 アンケート結果や意見等を多角的に分析して改善に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間の協働や報告・連絡・相談を常に意識して連携し組織運営にあたる。 園務の分担を各自が自覚し責任をもって遂行し、率先して進めていく。 今後も職員間の意思疎通を図り、一人一人の良さが活かされる環境づくりに努める。 アンケートの結果以外にも、保護者の声を常に聴き、早急・柔軟に対応していく。
		② 園経営目標・方針			B		
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識					
		④ 園務分掌等の連携			A		
		⑤ 会議の運営と位置づけ			B		
		⑥ 会議の結果			B		
		⑦ 職場の人間関係			A		
		⑧ 園評価の実施			A		
	(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 園課題に沿った園内研修会を計画的、継続的に実施し、充実した内容になるよう方法を工夫している。 創意工夫のある保育実践に取り組み、反省評価をし、指導力向上に繋げている。 研修、研究会に積極的に参加し、その成果を他の職員に伝え共有できている。 園研究テーマを意識し、でいあシートを活用したりカンファレンスを行ったりしながら研究に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 奈良市立こども園カリキュラムにかかわる研修をし、育ちの姿を再確認した。 研究主題に視点をおいて子どもの姿を出し合う中で、子ども理解を深める話し合いを継続して行った。 日々の子どもの姿から省察し、保育内容・環境を構成し実践した。 研修に参加し、学んだことを共有し、スキルアップにつながるようにした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で研究主題に添った保育の振り返りや考察から、子ども理解を深め、環境・援助を共有しながら、子どもの育ちにつなげていった。保育内容の充実や環境の展開を広げられる。 研修及び研究会に参加し、学んだことを伝え合ったり、意見交換したりし、保育の向上に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の研究内容を話し合い、次年度に向けての体制を整える。 園内研修、外部研修の充実のための時間の確保に努める。 職員が研修会に積極的に参加し自己の能力を高めるための機会を多く作り、資質向上に努める。
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施			A		
③ 園外の研修への積極的参加		B					
④ 園外研修内容の共有		B					
⑤ 研修成果の普及		B					
(3) 安全管理	① 安全計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 安全安心な園生活が送れるように、計画を点検し、全職員で理解している。 災害発生時や緊急時に対応する実践的な訓練を実施している。 子どもの発達段階や地域の実情に応じた安全指導を工夫している。 家庭・地域と連携をして、登降園の安全を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 園内の安全点検・避難訓練などを年間を通して計画し、子どもが安全に過ごせるようにした。 園児引き渡しカードを作成し、大規模災害発生を想定して、引き渡し訓練を実施した。 P T Aの協力を得て、集団降園時に保護者全員で安全確認を行った。 地域の防災士や警察を講師に招き、安全について学ぶ機会を得た。 防犯カメラやプレートを設置し対策を強化する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の訓練を行うとともに、子ども自身が避難時について考える指導を行うことができた。 安全についての啓発や年3回の集団降園時の指導を繰り返し行ってきたことで、安全管理意識が高まった。 訓練時に防災士や警察に来園してもらい、職員向けの指導も受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な災害発生を想定し、避難訓練を実施する。 園児引き渡し訓練をより充実させる。 避難経路の確保について、引き続き関係機関に働きかける。 事故を未然に防ぐことができるよう、職員間で意識を高めていく。 	
	② 防災計画の立案			A			
	③ 危機管理体制の整備			B			
	④ 安全指導の工夫改善			B			
	⑤ 家庭との連携			A			
	⑥ 関係機関との連携			A			
(4) 保健管理	① 保健計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが、自分の体や健康について興味をもち考えられるように、発達段階・時期に応じた計画を立案し、実践している。 関係機関と連携し、感染症及び熱中症への対策をしている。 保育内容を工夫し関係機関と連携しながら食と体、健康について関心がもてるようにしている。 感染症対策を徹底し昼食前後の衛生管理をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 健診や身体測定等を計画的に行い、子どもが自分自身の体や成長について興味をもてるようにしてきた。 感染症に関する情報収集に努め、適切に対策を実施したり保護者に啓発したりした。 手洗い・うがいなどの指導及び、衛生管理に努めた。 園医、薬剤師、小学校との連携を図った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 健診や測定、保健指導を通して子ども自身が健康について考えたり、感染症対応をしたりした。 感染症拡大防止にできうる限り対応し、取り組んだ。 時期に応じた指導、啓発をしたり、情報提供をしたりして、保護者との連携に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防については、市、関係機関と連携し必要な対策を進める。 保健計画を見直し、健康・成長・予防などについての教材を研究する。 たよりなどを活用して、保護者への啓発と連携を行う。 衛生管理をより一層徹底する。 	
	② 心のケアや健康相談の体制の整備			B			
	③ 健康観察、健康管理能力の育成			A			
	④ 関係機関との連携			B			
	⑤ 昼食（給食等）の衛生管理			A			
(5) 地域との連携	① 園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動に関わる情報を地域、保護者に発信したり、保育公開をしたりしている。 地域や保護者に園のねらいを受け止めてもらえるよう説明や依頼を行い、連携している。 ゲストティーチャーや地域コーディネーターと活動し、地域の教育力を活かしている。 多様な人との関わりや校種間交流を進めている。 学校評議員の意見を聞く機会を定期的に設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 園だより・クラスだより・ホームページ・懇談会等を通して、園生活の様子を知らせた。 作品展や演奏会などで小中学校との連携をもった。 地域コーディネーターやゲストティーチャー、また地域の方々との連携することで、園だけではない様々な豊かな活動ができた。 学校評議員会を開催し、保育や園行事を参観して頂き、園に対するアドバイスや評価をいただく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> たよりやホームページ、懇談会、園内掲示等で、家庭や地域に園の活動を発信することができた。 地域コーディネーターや地域の方と情報交換をした。 学校評議員会をもち、子どもの実態や園運営の状況について説明をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの活用とともに、家庭・地域に向けての発信を高める。 小中学校や中学校と連携をもち、子どもの育ちにとって必要な校種間の連携をどのようにしていくか協議をする。 学校評議員会で、園運営などについての意見を参考に、改善やより良い運営を探っていく。 	
	② 園(保育)公開			B			
	③ 小学校との接続・連携			B			
	④ こ幼保との連携			B			
	⑤ P T A・保護者会の活性化			A			
	⑥ 地域教育協議会との連携			A			
	⑦ 学校関係者評価の実施			A			
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 園内環境の安全・整備・改善に努めている。 施設、設備の管理を適切に行うとともに、有効活用できるようにしている。 修繕が必要なものは関係機関に要請する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の遊具点検と共に、定期的に遊具・施設点検や環境整備を行い、安全に保育が行えるように努め、不備に気付いた時は可能な限り整備に努めた。 木の伐採、遊具のペンキ塗りの修繕を行い、環境を整備した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員で協力し合い、安全、快適な環境づくりに努めた。園でできる整備は限られているので、関係機関に連絡することを大切にして迅速な対応を行い、安全確保に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設、設備を新たな視点で見つめ活用を考え子どもの活動の充実繋げる。 今後も施設・設備の管理を行い、安全確保に努める。 	
	② 施設設備の有効利用			B			
	③ 施設設備の管理			A			
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	<ul style="list-style-type: none"> 各種文書を適切に作成、管理している。 個人情報について職員が理解し、適切に取り扱うようにする。 情報機器の管理、運用を適切に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報、情報モラルについて職員間で共通理解した。また、個々の管理、チェック体制の不備がないか確認を重ねた。 市の通知等を周知し、情報の管理と保護を継続して行った。パソコン、デジカメ等の取り扱いには市のマニュアルを遵守し適切に使用した。保護者自身が個人情報について理解できるように啓発した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器の取り扱いは、各自が十分留意して取り扱っている。 随時、情報管理について周知し、確認している。 機会ある毎に保護者に啓発することで個人情報への意識が少しずつ高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報を徹底し管理に努める。 各文書の作成、管理等は厳重に適切に行う。 保護者には引き続き情報モラルや危機感についての啓発をしていく。 職員の意識を高め、各マニュアルについて確認を怠らない。 	
	② 公文書の作成			A			
	③ 個人情報の管理・保護			A			
	④ 情報の収集			B			
	⑤ 電子媒体の管理			A			